

活動の概要

ここ数年は、自身が置かれた状況を社会的な課題と位置づけ、これについての一つの対処手法を示すべく具体的な実践を行ってきた。すなわち、10 年前に農地の耕作権を引き継いだが、一般的に農地は「不良資産」として認識される。我が家では現在まだ両親とも健在であり、多様な経験と知識を有している。これら全体を資産として捉え、この環境だからこそできることを発見し、創意工夫により実践につなげている。この活動は、IAMAS で開催された「Summer Camp “Hack the world”」での講義として紹介し、紀要にも寄稿した。

学内での活動

1 委員会等

研究、RCIC、入試、自己点検、発明等審査の各委員会に属した。研究委員会では委員長として会を運営し、FD 研修や紀要発行、プロジェクト研究発表会、成果物の展示などを行った。

2 授業

次の各授業を担当した。

情報学基礎、デザイン特論 B、プロジェクト技術演習（情報工学）、プロジェクト実習、特別研究

2.1 情報学基礎

安藤泰彦、山田晃嗣との共同授業。当該年度で 2 年目の担当である。昨年度に引き続き人型ロボット（Pepper）を活用した。今回は対象を保育園児とし、ロボットと園児らのコミュニケーションをデザインすることを狙った。遊びのルールや進行方法、ロボット制御のシステムなど、幅広い視点においての考察を促すことができたものとする。

2.2 デザイン特論 B（身体×デザイン）

平林真実との共同授業。科学技術によってもたらされる一つの予測としてシンギュラリティを紹介し、その頃の生活についてディスカッションした。これと異なった視点からの未来予測として、「2052～今後 40 年のグローバル予測」なども参照した。

3 プロジェクト実習

次のプロジェクトを分担した。体験拡張インターフェイスプロジェクト、福祉の技術プロジェクト、根尾コ・クリエイション。



情報学基礎の様子（大垣市三城保育園）

3.1 根尾コ・クリエーション（分担）

岐阜県本巣市根尾地区（旧根尾村）をフィールドとして、地域住民と外部クリエイターが交流しながら、持続可能な共創社会を探求するプロジェクトである。当該年度は以下の各活動を行った。

- ・ ねおこ座一周年記念イベント

活動拠点として借りている「ねおこ座」の一周年を記念したイベントを行った（写真）。ここでは、自作した軽トラハウスを出展した。

- ・ 耕作放棄地の利活用

前年度に引き続き、野菜作り

農機具倉庫を兼ねた小屋作り

小屋での自然エネルギー実験（写真）

- ・ インタビュー

限界集落とされる、越波（おっば）、黒津、大河原、上大須の各所で今も暮らしておられる方からお話を伺った。活動を小冊子としてまとめた。

- ・ 講演会

「タネのおはなし」と題して、野口勲氏に講演いただいた。

- ・ 学会発表

地域活性学会にて前年度の活動を発表（研究代表者が発表）



ねおこ座1周年記念イベントの様子



自然エネルギー実験の様子

4 Hack the World 講師

“テクノロジーと創造性”をテーマに行われた、特別カリキュラムによる1週間の集中ワークショップ。

<http://www.iamas.ac.jp/17966>

http://www.iamas.ac.jp/hack_the_world/



“Hack the World”での講義の様子

5 その他の活動

IAMAS 紀要への投稿「小規模兼業農家の挑戦(II)」

自身が耕作権を持つ畑の管理を中心とした、ここ三年間の活動を紹介した。健康野菜とされるヤーコンを育成し、その芋の販売から、葉を利用したお茶の加工販売までにおいて、数々の「挑戦」を綴った。小規模であるからこそできることを、かつての農家が行ってきたように、身の回りのものを大いに活用し、必要なら自分で作る姿勢で行っている。



ヤーコン栽培の様子

学外での活動

1 外部メンバーとの活動

1.1 LIT 技術の展開

LIT は、特殊な光をスマートフォンのカメラで読み取るという可視光通信技術。GOCCO が、これを株式会社エスキュービズム・テクノロジーに供与し、IoT 製品「おかわりコースター」としての展開を探った。LIT 技術を自転車の鍵に応用する可能性も探った。

<https://s-cubism.jp/pressinfo/media/20160606.html>

1.2 コーヒー豆選別機

以前に開発した「コーヒー豆選別機」を、GOCCO がエチオピア大使館にてデモンストレーションした。

1.3 森林まるごと研究会

森林資源の利活用や保全に興味を持つメンバー六人が集まり構成している研究会。月に 1~2 回を目安に会合を持ってきた。その中での活動の一つとして、軽トラハウスを設計試作した（写真）。メンバーの意見を聞き取りつつ小林が設計を行い、メンバーが集って製作した。実運用を考え、工具無しで全体を組バラしできるなどの特徴を持たせた。20cm 弱の丸太から柱を作る際に出る端材（D ログ材）を多用することで、ログハウス風に仕上げつつ、全体の重量とともにコストを軽減している。ゆくゆくは端材の有効利用につなげ、関係産業の振興につなげられることも狙っている。これについて、先の紀要でも触れている。



研究会メンバーで作製した軽トラハウス
（軽トラ朝市出店の様子）

2 学会発表

「根尾コ・クリエイションプロジェクト:限界集落における新しい価値創出の試み」、金山智子、小林孝浩、中原淳、西田拓馬、ギブソン、ジェームズ、後藤良太、地域活性学会、第 8 回研究大会、2016

「モバイル端末複数台を集合体的に利用した VJ 表現の提案」、インタラクティブ 2017 論文集、情報処理学会、綿貫 岳海、平林 真実、小林 孝浩、2017. 3

3 その他の活動

- ・ 岐阜県立大垣商業高等学校情報科
iPhone アプリ開発に関わる授業の支援
- ・ 補助金 書面審査業務